

「感謝を忘れない歩み」ルカ17：11－19 堀田修一 20・12・27

本日の礼拝は、2020年の最後の主日礼拝です。一年間の主の恵みを思い、本日のみことばから感謝の恵み、大切さを確認したいと思います

I まずルカ11：12－19のみことばを味わいましょう。

「ある村に入ると、ツアラアト（これまでは、「らい病」と訳されていたが、この病は、皮膚に現れるだけではなく、家の壁や衣服にも認められるもので、どのようなものかは、いまだに明らかではない。その為に、新改訳2017では、聖書の原語のヘブル語のツアラアトがそのまま訳出されている）に冒された十人の人がイエスを出迎えた。彼らは遠く離れたところに立ち、声を張り上げて、『イエス様、先生、私たちをあわれんでください』と言った。イエスはこれを見て彼らに言われた。「行って、自分のからだを祭司に見せなさい。」すると彼らは行く途中できよめられた。そのうちの一人は、自分が癒されたことが分ると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリア人であった。すると、イエスは言われた。『十人きよめられたのではなかったか。九人はどこにいるのか。この他国人のほかに、神をあがめるために戻って来た者はいなかったのか。』それからイエスはその人に言われた。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです」。

II 主の恵みへの二つの応答

1. 十人中九人は、イエス様に、あわれみを請い願う時は、熱心で、イエス様の憐みと力で癒されたが、イエス様に感謝するために戻ることなく、行ってしまった。私達は、どうだろうか？

2. 十人中一人のサマリア人（ユダヤ人から見下げられ差別されていた）だけは、イエス様の憐みと御力により、自分が癒された事が分ると、喜びの余り大声で神をほめたたえながら引き返して来て、イエス様の足もとにひれ伏して感謝した。その彼に対して、主イエスは言われた。「あなたの信仰があなたを救ったのです」：19。ここには深い意味があると思われる。主は、「あなたの信仰があなたを癒したのです」と言われても良かった。しかし、主は、「あなたの信仰があなたを救ったのです」と言われた。つまり、このサマリア人の信仰は、ただ自分の病さえ癒されればよいという御利益信仰ではなく、彼は、主イエス、神により、病が癒された事も心から感謝したが、そこでとどまらず、イエス様を約束のキリスト＝メシヤ、救い主と信じたのである。それゆえに彼は救われた＝神との関係が回復した。

3. 私達は、どうだろうか？①神の願いの祈りだけは熱心にし、神を利用し、その問題が解決すると、神に感謝もせず、最も大切な神との関係を持たず、神抜きで自分を主とした歩みをするだろうか。それとも②主のもと、教会に行くきっかけは、自分の悩み、問題を解決してもらおう為に熱心に祈り願う者だったが、それをきっかけに、イエス様を人生の主として心に迎え、神との大切な生きた関係を回復して、悩みがある時だけではなく神に拠り頼む関係を続け、主の良くして下さった恵みを忘れず、一つ一つ感謝する人生だろうか。神に願い事をする事も喜ばれる。と同時に、神の恵みを数え、一つ一つ感謝する人生は、神に喜ばれ、人々にも良い影響を与え（私も感謝を数えてみよう）、自分自身の心も豊かにされる人生。

III 感謝の実践「主が良くして下さったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2

1. 私たち人間の弱さは、自分がした良い事は忘れないが、神や人が良くして下さった事を忘れる事である。その弱さを克服する良い方法がある。神と神が自分に出会いを与えられた人が良くして下さった事を数え、忘れず、思い出す事である。可能な方はノートに記す。※それぞれの霊的なルーティン。神にも人にも感謝をしたい。

2. 神が主の教会に良くして下さった事を思い起こしたい。

①今年も、私個人にとっても、忘れられない一年であった。牧会40数年の中で多くの試練を神は乗り越えさせられた。但し、コロナは、以前の試練を参考にできない、初めての厳しいものだった。初めて経験するコロナという試練の中で教会を正しく導くために、神の喜ばれる事は何か、教会員、家族を守る事を真剣に祈りつ

つ歩む一年だった。神は、一步一步、導かれた。「神は…耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えて下さる」(I コリント10:13)を体験させていただいた。教会を導く責任のある私に、教会員から二つの意見が届けられた。A コロナの中でも教会堂で礼拝をしたい。B 感染防止の為に、礼拝堂での礼拝を中止し、自宅で礼拝してはどうか。二つとも当然の意見であり、他の多くの教会も、同じような反応があった事だろう。真剣に祈りつつ対応する必要が生じた。

②そのような試練、難しい判断、決断の必要の中で、神は、私に、次のみことばを思い出させて下さった。「その意見をさばいてはいけません。…それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい」ローマ14:1、5。私はこれだと思った。4月12日のイースター礼拝まで、礼拝堂で礼拝を守った。それから、5月24日までは、主日の早朝の礼拝で録音し、それをホームページにアップし、自宅で礼拝するように導かれた。5月31日の主日礼拝から、ローマ14:1、5を土台とし、違った意見をさばかないで、誰にも強制しないで、各自に神が与えられた確信により選択していただく三つの礼拝形式が始まった。現在に至っている。この選択の方法は、これからも、しばらく続くコロナ禍の試練の中で用いられるだろう。※今年の11月20日に出された JECA の「新型コロナウイルス感染対策窓口からのお知らせ第10信」の中に「外出自粛要請」が再び発令されることもあるかもしれませんが、…必ずしも会堂での礼拝を休止するには及ばないと思います。むしろ、しっかりとした感染予防対策を行うこと」とあります。ローマ13:1の「人は皆、上に立つ権威に従うべきです」の意味は、全てに従いなさいという意味ではない。国や人が言論の自由(学術会議=学者が戦争を止められなかった反省からできた大切な会議で、国を正す発言をされた6人を切り捨てる問題=言論の自由を奪う、説明がなされず政府と国民との距離が出来る問題、戦争の反省がされていない現れ、戦争の反省をした方の連続ドラマ)を侵害しない正しい命令には従いなさいという意味である。もし上に立つ国や人が、言論の自由や信教、信仰、礼拝の自由を侵害する命令を出した場合に指針となるみことばがある→「神に従うよりも、あなたがた(上に立つ権威)に従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください」使徒4:19。三つの選択できる分散礼拝=i 午前7時からの礼拝。ii 10時半からの礼拝。iii 基礎疾患のある方、体調の悪い方は、自宅でホームページを聞きながらの礼拝。神は、それぞれの礼拝を喜び祝福される。互いにさばかず、他の教会と比べないようにしたい。それぞれの教会の状況は異なる。神は、それぞれの教会に合った礼拝の方法を導かれている。とにかく、素晴らしい神を礼拝できる恵みを感謝したい。私達は、礼拝の中で「主の祈り」をささげる。最初の祈りは「御名があがめられますように」、まずは神への礼拝(御名を崇め、御名が聖なるものとされるように)。

③総会、執事会、祈り会、奉仕の日、セルグループも縮小しながらも継続できた事を感謝したい。毎週火曜日には、礼拝に来られていない方々に、事務の奉仕で、牧師からのお便り、週報、説教の原稿、執事会報告、その他を送ることが出来ているのも感謝したい。このような積み重ねで、主にあって教会員はつながっている。ネット環境のない方々(ホームページを聞けない方々)や他の方々から感謝されている。出来ない事ではなく、出来る事を数え、感謝しつつ行う事が大切である。

④私達は、礼拝の中の「主の祈り」の中で(私自身は、毎朝のデボーションの中でも主の祈りを祈る)、「私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください」(マタイ6:11)と祈る。神は、この一年、厳しいコロナ禍の中で、私達個人、家族の必要を満たして下さっている。また、神の家族である教会の必要も満たして下さっている。これは、当然、当たり前恵みではない。私は、ある意味で、神の恵みの奇蹟と思っている。私は、厳しいコロナ禍の中で、来春、伝道師を招聘する事は難しくなるかもしれないと思った。しかし、神は、励まして下さった。「私の神は…あなたがたの必要をすべて満たして下さいます」ピリピ4:19。本当に生ける神は、教会の会計を満たし続けておられる!これは神の奇蹟的な恵み!この厳しい年に、教会の働き人(伝道師)を招聘する事を決める教会は少ないと思われる。厳しい中、現状維持が精いっぱい教会も多いことだろう。

⑤コロナ禍の中でも、主を信じ、洗礼を受ける人々、当教会に転入する方々が与えられている恵み。

⑥教会の皆さんが、コロナ感染から守られている恵み。午後6時から11時の間の祈りへの神の応え。

⑦私達を神が守っておられる恵み。私達が気づいていない所にも神の守りがある。最悪からの守り。※証し。

⑧苦しみの中で、神を深く知る恵み。神の愛、救い、赦し、永遠の命、天国の希望、聖さ、偉大さを知る恵み。

⑨家族、神の家族である教会の方々の祈り、愛、助けの恵み。この一年の主の恵みを感謝します!